

第3回揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会 議事要旨

1. 日時 平成19年1月24日(水) 10:00～12:30

2. 場所 主婦会館 プラザエフ 9階 スズラン

3. 議題

(1) 改訂インベントリで対象とする発生源について

(2) 発生源ごとの推計について

(3) 発生源ごとの出荷量データ等と溶剤販売量との比較検証について

4. 出席者

委員: 浦野委員長、指宿委員、桐明委員、柴田委員、高戸委員、高橋委員、

南齋委員、西村委員、野中委員、長谷川委員、保坂委員、油井委員

オブザーバー: 海野氏(日本クリーニング環境保全センター)

環境省: 松井大気環境課長、野沢大気環境課長補佐

事務局: 社団法人 環境情報科学センター

5. 議事内容

事務局より、改訂インベントリで対象とする発生源について説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。

- ・ 「非意図的生成物」については、自主的取組の対象にならないことから原則として詳細な推計対象発生源から除外し、参考値として排出量を示すこととした。
- ・ なお、「排気ガス(燃料の燃焼)」については推計から除外する意見がある一方、これらの排出についても削減対象となる可能性もあることから、事業者には削減の機会を与えるべく推計対象発生源とするべきとの意見があった。これらについては、一旦排出量の推計を行った後、インベントリに含めるか改めて検討しなおす。
- ・ 「発生源」については工場等をイメージするが、現在の整理では製品などを主に用いているため、誤解のないよう「発生源品目」等の用語に変更すべきである。

事務局より、発生源ごとの推計について説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。

- ・ 「発生源」は「製品の製造に係る排出」と「製品の使用に係る排出」などで区分した方が良い。
- ・ 業界団体から提供を受けた生産量、使用量などのデータについては捕捉率に留意すべきであり、後のデータと意味のある比較を可能にするため、大気排出率等も含め根拠等をできるだけ明記することが必要である。
- ・ 東京都など地方公共団体の条例による届出データは、業界団体から提供された大気排出

率をチェックする際の参考にすべきである。

- ・ コークス炉からのベンゼン排出について排出実態を整理するとともに、「非意図的生成物」に含めるのが適切か検討すべきである。
- ・ 推計フローは、製品の出荷量から始まり、最終的に業種に振り分けるなど、全ての発生源で統一した形式(流れ)にすべきである。

事務局より、発生源ごとの出荷量データ等と溶剤販売量との比較検証について説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。

- ・ 業界団体から得られる出荷量などのデータと極端な乖離がある場合には、業界団体に違いの原因を確認するべきである。

委員は本資料についての質問や意見を1月31日までに環境省へ書面で提出し、事務局は対応できるものから順次対応する。

次回検討会の日程は2月下旬をめどとして、別途事務局より調整することとし、次回検討会の議題には、揮発性有機化合物専門委員会への報告書案の審議を含むとした。

< 問い合わせ先 >

環境省 水・大気環境局 大気環境課 電話 03-5521-8293

< 配付資料 >

議事次第

揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会委員名簿

揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会 配席表

資料1 第2回 揮発性有機化合物(VOC)排出に関する検討会 議事要旨(案)等

資料2 改訂インベントリで対象とする発生源(案)

資料3 発生源ごとの推計方法(案)と試算結果

資料4 発生源ごとの出荷量データ等と溶剤販売量との比較

参考資料 溶剤販売量に係るアンケート調査の結果